

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	・木造建造物密集地帯において発生した火災での消火活動中に熱傷を負った。
3. 体験した事例の中心的要素	・先着隊として現場に到着する。 ・消火活動中、火元建物からの熱を強く受け、呼吸器面体の首かけ紐が溶け、隊員も熱傷を負った。
4. 体験した事例の原因・理由	・活動環境の状況把握、輻射熱に対する危険情報を把握、予見できなかった。

【体験した事例の直接的原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。(大丈夫だろうと思った。)
------------------	------------------------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成29年1月5日 午後10時頃
2. 発生した当時の天候	曇り
3. 発生した活動現場	屋外：火元から数メートル離れた空き地
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	火傷・熱傷
7. 事例体験時の活動	火災現場活動中期、[木造建物]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	放水活動
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

○当事者A	年齢[22]歳、勤続年数[4]年、現場経験年数[4] 年、階級[消防士] 同様の活動 [過去に1,2回]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[40]歳、勤続年数[22]年、現場経験年数[22] 年、階級[消防司令補] 同様の活動 [数年に1度程度]、任務 [車長]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 []、任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

[illegible]

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	全員	現場到着。	
経過2	B	放水準備を行い、放水開始を指示。	
経過3	A	ホースライン50mm×7本引き、放水を始	
経過4		める。	
経過5	A	熱を強く感じたので自衛噴霧注水を行いな	
経過6		がら放水する。	
経過7	B	後着隊が来たため転戦するようAに指示。	
経過8	A	建物東側に転戦する。その際、呼吸器面体	
経過9		の首かけ紐が溶けていることに気が付く。	
経過10	A	帰所後、着替えている際に熱傷を確認する。	
経過11			
経過12			

.....

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	はい

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	はい
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

・火勢からの熱を感じる前に自衛噴霧注水を行いながら消火活動を行うべきだった。 ・熱を感じるようならすぐにその場所から離れられるような環境があるのか周辺を確認する。 ・状況判断の能力不足のため発生した事例であるため、今後、輻射熱を含めた危険要因の再確認、消火技術の向上に努めたい。	・熱を感じるようなら
---	------------

○装備・資機材の対策について

・特になし。

○活動環境の対策について

・特になし

○指揮・情報伝達の対策について

・特になし

